

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立晃宝小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	95人	算数	95人	理科	95人
第5学年	国語	74人	算数	74人	理科	76人

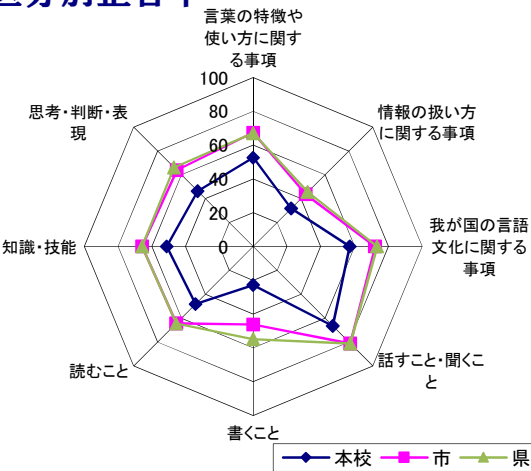
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	52.6	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	31.9	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	57.1	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	66.5	81.2	81.2
	書くこと	22.8	46.2	54.9
	読むこと	48.2	64.3	64.5
観点	知識・技能	51.2	65.7	65.7
	思考・判断・表現	46.4	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

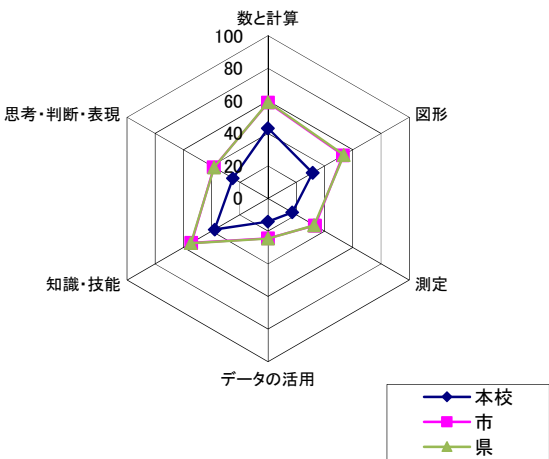
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「3年生で学習した漢字を正しく書く」設問3問の平均正答率が34.1%で、市を22.6ポイント下回った。 ●「主語と述語の組み合わせとして適するものを選ぶ」設問の平均正答率が46.2%で、市を18.2ポイント下回った。	・新出漢字の読み方や字形に注意させながら、繰り返し練習して漢字を覚えることを、引き続き国語の授業や家庭学習で取り組めるようにする。また、文章を書く際には、今までに学習した漢字を意識して使うことを習慣付けられるよう、全ての教科の授業において指導していく。 ・Aドリルを活用し、習熟を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうか」をみる設問の平均正答率が31.9%で、市を11.9ポイント下回った。	・分からない語句は国語辞典を引いて調べる等、国語辞典に触れる機会を増やすように指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「漢字のへんとつくりを正しく組み合わせて既習の漢字をつくる」設問の平均正答率が57.1%で、市を15ポイント下回った。	・漢字の成り立ちや漢字の意味を理解できるよう、国語の授業や家庭学習の課題等で、漢字辞典の活用を年間を通じて継続的に指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「司会者の話し方の工夫を説明した文として適するものを選ぶ」設問の平均正答率が58.2%で、市を19.9ポイント下回った。 ●「クラスの本だなにまんがを入れるという意見について自分の考えを理由を挙げながらまとめる」設問の平均正答率が59.3%で、市を22ポイント下回った。	・話し合い活動を通して、話の要点となるものをメモをとったり、聞き取った話の内容に対して共通点や相違点を踏まえて自分の考えをまとめたりする場面を設定し、聞く力を高めていけるように指導する。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」設問の平均正答率が15.4%で、市を18.7ポイント下回った。 ●「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く」設問の平均正答率が24.2%で、市を24.4ポイント下回った。	・指定された段落構成で文章を書くことできるよう、教科書の教材文等を活用し、段落をつくることの意義や目的を確認し、段落の「型」を理解できるような時間を作る。 ・すべての設問で無解答率が55%という結果から、一人一人の子どもの実態に応じ個別指導を行い、書く力の定着を図る。・週末日記等、書くことを身近に感じられるような活動を日常的に設定する。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「登場人物の行動の理由を説明した文として適するものを選ぶ」設問の平均正答率が27.5%で、市を11.6ポイント下回った。 ●「文章の要約を読み、空欄に適する語を書き抜く」設問の平均正答率が36.3%で、市の平均を25.3ポイント下回った。	・物語文については、登場人物の気持ちや言葉・様子・心情の変化などに着目できる指導を行う。 ・朝の読書の時間や図書室の時間を活用し、様々な文章に触れる機会を作り、読書の習慣を付ける。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	43.2	58.9	59.2
	図形	31.5	53.0	53.7
	測定	17.0	33.1	32.6
	データの活用	14.0	24.4	24.6
観点	知識・技能	37.9	54.3	54.7
	思考・判断・表現	25.0	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

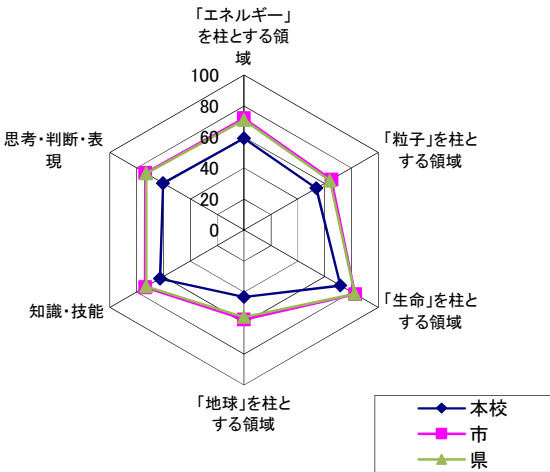
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「分数の大きさ」の問題は平均正答率が50.6%で、市を20ポイント下回った。また、「数直線で目盛りが表す数の大きさ」の問題は平均正答率31.9%で、市を23.9ポイント下回った。 ●「3けたー3けた」はの問題は平均正答率が63.7%で、市を11.3ポイント下回った。また、「2けた×1けた」の問題の平均正答率は、58.2%で市を14.7ポイント下回り、課題がある。	・数直線を用いて演算決定をしたり計算の仕方を考えたりする活動を充実させ、四則計算の理解を図れるようにする。 ・A1ドリルを活用し、習熟を図るようにする。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ●円の半径を利用して正三角形を作図する問題は平均正答率が12.1%で、市の平均を26.8ポイント下回った。 ●「二等辺三角形の性質を理解しているか」を問う問題では、平均正答率が58.2%で市を11.5ポイント下回り、課題があると思われる。	・具体物进行操作する活動を取り入れたり、視覚支援教材を使用したりして、図形の見方や感覚を豊かにしていくことで、図形の性質や構成要素について理解が図れるように指導の工夫をする。
測定	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「球の半径を利用して箱の長さを求める」問題の平均正答率は24.2%で、市を26.4ポイント下回った。 ●「地図から2つの道のりを読み取り、差を答える」問題では、平均正答率が25.3%で市を20.2ポイント下回った。	・ボール等の具体物进行操作する活動を取り入れたり、視覚支援教材を使用したりして、理解が図れるように指導の工夫をする。 ・互いの考えを聞き合ったり、認め合ったりする場面をもちながら、思考の根拠を適切な言葉で記述できるよう指導していく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「棒グラフを読み取り、2番目に多いものを答える」問題では、平均正答率が29.7%で市を18.1ポイント下回った。 ●「目盛りの数が異なる2つの棒グラフを正しく読み取る」問題の平均正答率は14.3%で市を9.2ポイント下回り、課題がある。	・同じデータを異なる目盛りの付け方で表したいくつかのグラフを比較する活動を取り入れながら、グラフを正しく読み取る活動を取り入れることで、目盛りに気を付けてグラフを読み取るように指導していく。 ・すべての設問で無回答率が60%を超えているという結果から、社会など他教科との関連も図りながらグラフを読み取る力を身に付けるように指導していく。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	59.2	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	53.9	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	71.8	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	43.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	62.6	73.8	72.8
	思考・判断・表現	60.4	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「音の大小とふるえ方の違いについて理解しているか」を問う問題では、正答率が50.6%で、市や県の平均を約21ポイント下回った。 ●「実験結果の、ゴムをのばす長さや車の動く距離の関係から、車が動く距離を推測することができるかどうか」を問う問題では、正答率が57.1%で、市や県の平均を約16ポイント下回った。	・領域内の基礎的知識の定着が不十分である児童が多く、基礎的知識を利用して文章を読み取り、記述する問題を苦手とする児童も多い。そのため、AIDリルやワークを使つての基礎的知識の復習を行い基礎的知識の定着を図る。 ・文章問題に取り組んだり、実験などを行った際には考察を自分の言葉で考えたりする場の設定を行う。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「形を変えても重さは変わらないことについて理解しているかどうか」問う問題では正答率が75.8%で、市や県の平均正答率を約12ポイント下回った。 ●「同じ体積でも、ものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考えることができるか」を問う問題では、正答率が31.9%と低く、市や県の平均を約10ポイント下回った。	・表や実験結果から分かることや考えられることを表現できるようにするために、自分の考えを発表したり、ノートに書いたり、友達と意見交換したりする場面を設ける。また、どうしてそう考えたのかを理由立てて説明できる力を育てていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「ダンゴムシが昆虫のなかまではない理由を答える」問題では、正答率が49.5%と低く、市や県の平均より約22ポイント下回った。 ●「昆虫のすみかについて理解しているかを問う」問題では正答率が93.4%と高かったが、市や県の平均をわずかに約3ポイント下回った。	・体験を多く取り入れた活動ほど知識・理解が深まっているため、今後も植物や昆虫など多くの体験学習を取り入れ、全員が理解できるようにしていきたい。また、得た知識を分かりやすい言葉にしてまとめる時間を設け、知識の定着・言語化をしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「かげのできる向きとかげふみで逃げる方向について選ぶ」問題では、正答率が52.8%で、市や県の平均よりも約18ポイント下回った。 ●「方位磁針の正しい使い方を選ぶ」問題では、正答率が39.6%で、市や県の平均よりも約8ポイント下回った。	・一日の太陽の動きとかげのでき方が理解できるように、理科の授業以外の時間でも、太陽とかげの動きについて興味をもつような問いかけをしたり、観察の場を設定したりする。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」と回答した児童の割合は76.5%と高く、県の平均と比べて12.2ポイント上回っている。授業において一人一台端末を日常的に使用する本校の取り組みにより、児童のインターネット活用能力が向上していると推測される。今後も学習活動の内容に応じて、本やインターネットを効果的に利用していきたい。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」と回答した児童の割合は67.3%と高く、県の平均を15.5ポイント上回っている。話を聞く態度や多様な考えを受け入れる態度をさらに育成することにより、対話的な学習による教育的効果を高めていきたい。

○「国語の学習が好きですか。」の問いに対し、肯定的回答をした児童の割合は80.6%であり、県の平均を8.8%上回っている。また、「社会の学習が好きですか。」の肯定的回答は、県平均を約5ポイント上回っている。好きな教科の学習内容の定着に向け、児童が意欲をもてるような学習展開や学習形態の工夫を行っていきたい。

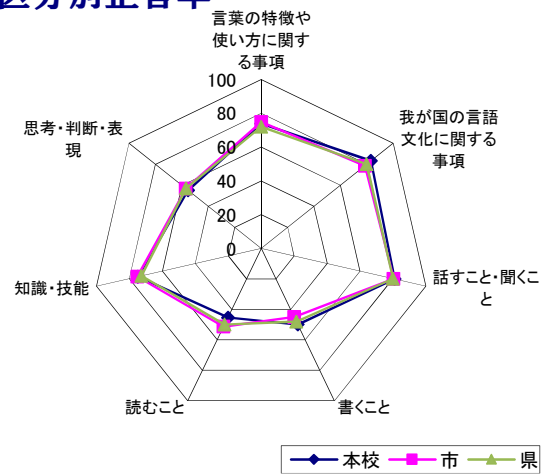
●「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師も含む)。」の質問に対し、「全くしない」と回答した児童の割合は25.5%で、県の平均と比べると14.5ポイント低くなっている。宿題・自主学習の見直しや家庭との連携を図ることで、学習習慣の確立を目指していきたい。

●「平日1日当たりのスマートフォンやインターネットの利用時間が4時間以上である。」と回答した児童の割合は15.3%と、県の平均と比べると10ポイントほど高くなっている。また、「平日1日当たりのテレビゲーム(携帯式ゲーム、スマートフォンを使ったゲームを含む)をする時間が4時間以上である。」と回答した児童の割合は20.4%と、県の平均と比べて5ポイントほど高くなっている。一方、「早寝、早起きを心がけていない。」の回答は20.4%と県平均を13.1ポイント上回っており、スマートフォンやゲームの長時間利用が夜更かしに繋がっていると推測される。スマートフォンやゲームの適切な使い方について、啓発を継続していく必要がある。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.9	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	83.1	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	81.0	80.4	80.0
	書くこと	50.0	45.1	48.0
	読むこと	45.3	51.3	50.0
観点	知識・技能	74.8	75.2	72.8
	思考・判断・表現	55.4	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

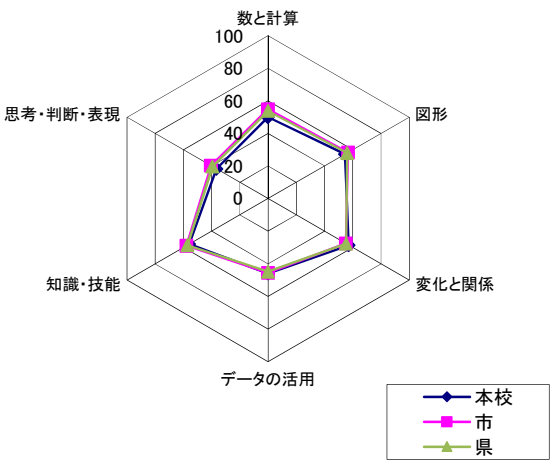
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均とほぼ同じである。 ○「漢字を正しく読み書きすることができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は市とほぼ同じであり、学習内容が定着していると考えられる。 ●「連用修飾語について理解しているかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は、市の平均を上回っているが正答率が14.1%と低く課題が見られる。	・AIDリルの活用や、教科書の意味調べなどを通して日常的に漢字や語句に関心をもたせることで、言語への理解を深められるよう指導する。 ・普段取り扱う文章の中で、主語・述語の関係や修飾と被修飾の関係を意識しながら学習を進めていく。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均とほぼ同じである。 ○「慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は83.1%で、市の平均正答率よりも4.5ポイント高く、学習内容が定着していると考えられる。	・AIDリルや自主学習で「ことわざ」や「慣用句」に触れる機会を取り入れることで、さらに定着を図れるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均とほぼ同じである。 ○「司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうかをみる。」ことをねらいとした問題の平均正答率は69.0%で、市の平均よりも4.5ポイント高く、考えをまとめる力が付いていると考えられる。	・小集団や班別活動において話し合い活動を積極的に取り入れる。その際に、相手の意見との共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめる活動をとおして、話の要点を押さえて聞く力をさらに養っていく。
書くこと	平均正答率は市の平均とほぼ同じである。 ○あいさつについてのアンケート結果を読み、7行から9行の間で文章を書く問題では、市や県の平均より13～16ポイント高い。 ●あいさつについてのアンケート結果を読み、2段落構成で文章を書く問題では、市や県の平均より約10ポイント下回った。	・指定された条件を必ず満たして文章を書くことができるように、朝の学習の時間等を活用して短文づくりの演習を繰り返す。
読むこと	平均正答率は市の平均とほぼ同じである。 ○登場人物の気持ちの変化や性格について説明した文を選ぶ問題の平均正答率は市や県の平均より2～4ポイント高い。 ●文章の内容を説明した文として、適するものを選ぶ問題の平均正答率は9.9%で、市や県の平均より22ポイント下回った。	・文章構成を考えながら「要旨」にたどり着くことができるように、事実と意見を区別しながら順を追って丁寧に読み取る活動が続けることで、読み取りの力を付けるようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	50.0	54.9	53.7
	図形	54.5	56.6	56.1
	変化と関係	57.0	55.1	55.2
	データの活用	45.9	45.5	44.8
観点	知識・技能	55.8	57.8	57.2
	思考・判断・表現	36.6	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

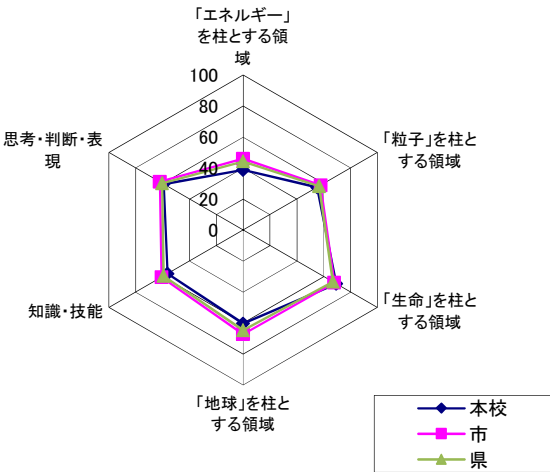
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○「大きな数の見方」の問題では 市・県の平均を8ポイント上回った。 ●「小数」では小数のしくみを理解しているかをみる問題で市・県の平均を20ポイント近く下回った。 ●「概数」に課題が見られ、市・県平均値を約20ポイント以上下回った。	・朝の学習の時間に、四捨五入を中心に既習事項の復習をするようにプリント学習を行う。 ・小数の計算の習熟を図るため、宮っ子ステップアップシートやAIDリルなどを活用する。 ・5年生の学習を進めるにあたり小数の意味の確認や既習事項を復習する時間を作る。
図形	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ●複雑な図形の面積の求め方、三角定規の角度を理解しているかをみる問題では市・県平均値を約5ポイント下回り、課題が残った。また、作図が正確にできていない児童が多い。	・面積について数字と実際の大きさを照らし合わせるように身近な場所をつかって、体験的な学習を取り入れていく。 ・図形に合わせた面積の公式や単位の定着を図る。 ・定規やコンパスを使う機会を増やし、道具に慣れさせる。 ・朝の学習の時間に、作図のプリント学習を行う。
変化と関係	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○割合の仕組みを理解している問題では、市・県の平均を約10ポイント上回った。 ●割合を使った比べ方について説明する問題が5ポイント下回っている。	・授業において、文章や表から数量の意味を読み取り、分かることを自分の言葉で説明する場を設定する。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○票の数が何を表しているかの問題は、市・県の平均を10ポイント上回った。 ●グラフの特徴を読み取る問題は市・県の平均を3～9ポイント下回った。	・グラフの特徴を読み取れるよう、縦軸、横軸の数値の意味について再度指導を行い、定着を図るようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	38.8	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	55.1	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	69.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	60.3	67.2	64.6
観点	知識・技能	56.2	60.8	59.2
	思考・判断・表現	59.2	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の平均より低い。 ○「並列つなぎの名称」を答える設問では、市の平均正答率を約3ポイント上回った。 ●「簡易検流計の針のふれ方からわかること」を答える設問では、市の平均正答率を約18ポイント下回った。電流の大きさや向きではなく「＋極」や「－極」などと答えており、用語を正しく理解しないまま覚えている様子が見られた。	・朝の学習の時間等にプリントやAIDリルを活用しながら、基礎学力の定着を図る。 ・可能な限り実物を用いながら観察や実験を行い、実感を伴いながら理科に関する用語を正しく覚えることができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の平均より低い。 ●「水を温めたときの示温インクの色の変化」を答える設問では、市の平均正答率を約20ポイント下回った。観察や実験で何をどのような方法で確かめようとしているか、正しく認識していない様子が見られた。 ●「水蒸気が冷やされると水になるこ」を説明する設問では市の平均正答率を約8ポイント下回った。	・朝の学習の時間等にプリントやAIDリルを活用しながら、基礎学力の定着を図る。 ・授業の中でめあてや予想に立ち返り、何を調べる実験なのかを正しく捉えて考察やまとめができるようにする。 ・観察や実験に取り組んで満足する様子が見られるので、実験結果からの考察をより丁寧に指導し、児童が自分の力で説明できるようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の平均を上回った。 ○「骨や筋肉という名称」を答える設問や筋肉の伸び縮みを答える設問は、共に市の平均正答率を約9ポイント上回った。 ●「生き物の様子の写真の中から春以外のものを選ぶ」設問では市の平均正答率を約5ポイント下回った。	・生き物の成長の様子や人の体の構造に関する理解が進んでいる様子が見られた。今後も実物を観察できる機会を多く取り入れるとともに、ビデオ教材等のICT教材も活用しながら、実感を伴った理解を図ることができるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の平均より低い。 ○「気温のはかり方」を答える設問では、市の平均正答率を約20ポイント上回った。 ●「雨の日の一日の気温の変化」を説明する設問では市の平均正答率を約14ポイント下回った。 ●「観察の結果から星の色や星の動き方を読み取り、答える」設問では、市の平均正答率を約11ポイント下回った。	・朝の学習の時間等にプリントやAIDリルを活用しながら、基礎学力の定着を図る。 ・問題に示された図やグラフを正しく読み取ることができず、正しい情報を読み取ることに課題が見られた。算数等の他の教科とも関連付けながら、図やグラフの読み取り方の定着を図りたい。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は97.4%、「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合は、96%と、県の平均と比べて高く、学習の重要性を理解している児童が多い。今後も、宿題や自主学習の充実や学習内容と普段の生活を結びつける支援を継続して行い、学習意欲を高め、学力の向上も目指していきたい。

○「ノートには、目標とまとめを書いている」と回答した児童の割合は97.4%と県平均より+5.3ポイントとなっており、学習に前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。今後も、「はっきり、じっくり、しっかり」を念頭に置きながら、児童が意欲をもてるような学習展開や学習形態の工夫を行い、更に、児童の学習内容の定着を目指していきたい。

○「毎日の生活がじゅう実していると感じている」と回答した児童の割合は92.1%、「家の人と学校でおできごとを話している」と回答した児童の割合は94.8%、「先生は学習のことについてほめてくれる」と回答した児童の割合は98.7%と、いずれも県平均より高く、家庭や学校において、毎日の生活が楽しく過ごせている様子がうかがえる。今後も、家庭とも連携を図りながら、充実した毎日の生活の中で、安全で楽しい学校生活が過ごせるよう継続していきたい。

●「月～金曜日、1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか。」に対して、4時間以上と回答した児童の割合は22.4%で、県の平均より+5.8ポイントとなっている。授業中や学級活動でICTの正しい使用法について指導するとともに、自分自身で考える時間を多くし、適切なルールをクラスで話し合う等の時間を設ける。更に、学年だよりや保健だよりなどでの家庭への啓蒙活動をさらに推進し、今後もICTに関する指導の充実に努めていきたい。

●「自分には、よいところがあると思う。」と回答した児童は80.3%で、県の平均より-1.8ポイントであった。一方で、「よいところがない。」と回答した児童は19.7%で、県平均より+2ポイントとなっており、自己肯定感の低さが見られた。係活動や委員会活動などでの活躍している児童へ個別に称賛するとともに、学級内においてもお互いに認め合う活動を充実させ、自己肯定感を高めていきたい。

宇都宮市立晃宝小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○ICT機器の効果的な活用 の授業実践に関する研究 ○学習習慣の定着のための指導	○学習用具の準備や学習のきまり、話し方・聞き方等の学習態度や学習技能を育てるための指導を学校全体で共通理解し取り組んでいる。 ○ICT機器の効果的な活用の実現を目指し、学校全体で研究している。	○授業を集中して受けているという質問の肯定的回答率は4年生で88%、5年生で98%を超えている。 ○4年生では本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ているという質問で市の平均を、5年生では、分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べているという質問で市の平均を超えている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○基礎・基本の定着 ○無回答率の高さ	○基礎・基本の定着を目指す学習指導の工夫 ○最後まで諦めないで取り組む学習態度の育成	○パワーアップシート、ステップアップシート、AIDリル等の年間を通しての計画的な活用。 ○授業でのICTの効果的な活用についての研修。